

文化

4

立川と語ろう 立川に生きよう
April 2006
écoutez bien Vol.24 No.257



表紙の人／井上 保(高松町) 写真／細江英公



里の花見

田や畑が動き出すともれびの里は忙しい。が、たまには作業を休んで花見を楽しむ。
国営昭和記念公園は立川の桜の名所。
たとえ桜はなくても、農繁期を前に
共に飲み、食い、歌い、踊って英気を養う。

昨年の桜は遅かった。花見の日に桜はなく「みんなの原っぱ」脇の辛夷の花の下に席を作った。里のメンバーたちが持ち寄った料理や酒を車座になって楽しむ。飲めば手拍子とともに唄が出、踊りも始まる。

辛夷は別名「田打ち桜」。立川の市花でもある白い花が咲くと、そろそろ農作業も本番。古くは桜の花見も山の神を里に招き豊作を祈る行事だった。村民が揃って山や野辺に出て花を褒め、飲み食いする。男女が歌をかけあう歌垣もそこで行われた。

今年は水田が拡がり、果樹園造りも始まった。花見が終われば、手にマメを作って鋤をふるい、汗をぬぐいながら田の代掻きや植付けをする日々。公募で集まった新メンバーを加えて、ボランティアたちの農村づくりも5年目を迎える。



松井 精三さん（昭島市在住）



現在の小金井公園のあたりで雑木林や麦畑、芋畑が変貌するのを見て育ちました。こもれびの里に参加して、かつてあった風景を孫の世代に残したいという夢を追っているんですね。農薬を使わないのでトンボやミミズ、トカゲ、カエルなど生き物が増えました。作物作りや農家の再現とともに、武蔵野の景観と自然が再生するのが楽しみです。

ゴスペルって生活に根ざした音楽なんです



Fafa GOSPEL HOUSE リーダー
Nana さん

■ Nana (なな) / 本名・内田奈々子。高校生時代からゴスペルを始め、二〇〇一年に立川でファファ・ゴスペル・ハウスを立ち上げ、幅広く活躍するゴスペルクワイアの作詞作曲、ディレクター、シンガーとして先頭に立つ。今春大学を卒業して社会人へ。
■ 芳賀敏博 (はが・としひろ) / えくてびあん編集人

於：曙町 えくてびあん編集工房で 写真：小林達実

芳賀 NanaさんやFafa GOSPEL HOUSE (ファファ) のみなさんとは、立川の音楽の場でよくお会いしますが、このところ大活躍ですね。

Nana 昨年はファファのCDを出すことができ、メディアにいくつも取り上げられて、聴きにきてくれる人が増えましたし、思いがけないところから出演依頼が来たり、充実していましたね。神奈川の県立高校で全国初のゴスペル授業を持つようになったのもうれしかった。今年6月で結成5周年になりますがほんの数人のメンバーから始めて今は40数名。古いメンバーは進んで企画を立ててくれるようになっていきますし、継続は力になって思います。

芳賀 18歳からゴスペル講師をして、ファファを立ち上げたのが19歳の時なんです

ね。すごいなあ。ゴスペルは高校で始めたんですか？

Nana 小さい頃から歌は大好きで歌手になるのが夢だったんです。中学3年の時に『天使にラブソングを…2』という映画を観て完全にハマって(笑)。高校では気の合った仲間を集めて合唱部を立ち上げて歌っていました。高校3年最後のクリスマスコンサートというのがあって、そこで私が前で指揮をとったり歌ったりしていたら、たまたま聴きにきていた父兄の方の中に牧師さん夫妻がいらして、そこの教会で黒人シンガーを招いたゴスペルコンサートを主催するので、バックで歌う日本人の指導をしてくれないかということになったんです。それがきっかけでゴスペル教室の講師をするようになり、横田基地の黒人教会の方とも

知り合って……本当に出会いに出会いが重なってここまで来たという感じです。

芳賀 高校3年のクリスマスコンサートがなかったら、ふつうに大学に行ってた？

Nana ふつうに大学に行く気はなかったんですけど、まったく違う展開になっていでしょうね。アフリカにボランティアに行っ、そちらの方に進んでいたかもしれません。

芳賀 アフリカですか？

Nana 15歳の時に読んだ本がきっかけでずっとアフリカに行きたかったんです。ブラックカルチャーが好きで歴史や文化を学んでいましたし。でも高校時代は慣れないひとり旅は危険なので、まずは青春18切符で国内旅行。卒業してすぐ徳島のユースホステルでひと月住み込みで働いて、その後西アフリカの現地NGOが主催している国際ワーキングキャンプに参加しました。トーゴという国に現地集合。アジア人は私だけ。18歳で最年少でした。ファファを立ち上げるようになったのも、最初は何かアフリカの役に立ちたいということだったんです。

芳賀 そういえば、ファファという名前もアフリカの言葉だとおっしゃってましたよね。

Nana 西アフリカの言葉で「平和」という意味です。ワーキングキャンプはボランティアといっても国際交流が中心だったんですが、現地に入って実際の貧しさに圧倒されたんです。行政が機能なくて学校の先生に給料が払われず教育も成り立たない。それで、日本に帰ってからやろうと思ったのは奨学金プロジェクトでした。日本ではわずかなお金でも現地に送れば大きな力になるんです。ただお金を出してくださいうのも難しいので、住み始めた立川でゴスペルのワークショップを開いて参加費から奨学金を送ろうと。プロジェクト名は現地NGOの方が一番好きな言葉だという

FafaをとってFafa AFRICAにしました。だから最初はFafa AFRICAのゴスペルワークショップ。ワークショップから現在のようゴスペルグループにすることになって名称からAFRICAは外れましたが、国際協力という考え方は発足以来で、今でも会費の一部を積み立てたりチャリティイベントを開催して援助に充てています。

芳賀 お話を聞いていても、本当に行動力がありますね。もうひとつ、いつも感心するのは、Nanaさんはじめファファは実に楽しそうに歌ってる(笑)。

Nana 行動力はもういらないくらいあるというか(笑)。昔から思い立ったら行動しないと気が済まない。最近は逆に慎重に考えて行動することが課題ですね。後先を考えずに行動して人に迷惑をかけることもありますから……。ファファが楽しそうだって見ていただくと嬉しいです。始めた頃はみんな表情も固くて、こんなじゃなかったですから(笑)。私自身、高校時代もずっと歌手としてコンプレックスを持っていたんです。でも横田の黒人教会で黒人の方たちが歌うのに触れて、自分の生活に照らし合わせて自分の歌を歌うのがゴスペルなんだって。誰に聴かせるのではなく心から歌いたくて歌う。ひとりひとりが込めた心が集まると、ものすごく大きな力になって聴く人も感動させるんです。ファファも「Nanaちゃんは本当に楽しそうに歌うね」から始めて、その楽しさがみんなに伝染したんでしょうね(笑)。ゴスペルを歌うことで少し人生を前向きにできたり、つらいことも乗り越えられたり、聴いた人から「よかったよ」って言ってもらえたり、みんなでCDが出せたり……ファファは私の「夢実現機構」なんです。私という人間性全部と私の音楽を好きだと受けとめてくれる大勢のメンバーがいて感動を分かち合える。これはソロの活動では絶対に味わえない醍醐味だと思います。一番楽しんでいるのは、

やっぱり私なのかもしれませんね(笑)。

芳賀 キリスト教に根ざしたゴスペルが日本で人気があるというのも、そのあたりに理由があるのかな。

Nana 背景にはキリスト教があるわけですが、黒人教会の人たちを見てると、歌う時にはそれを自分の生活や人生と重ねているんです。だから自分のゴスペルが歌える。ゴスペルですから私が作る歌詞も聖書からの言葉です。メンバーにはその背景を説明しますが、その上でその人自身の歌として歌ってもらいたいと思っています。その方がずっと意味がありますから。今行っている大学にブラックアメリカン文化の講義があって日本と共通するものが多いことに驚くんです。どちらも民謡が豊富、歌が大好きで、言葉に力が宿ると信じる「言霊」の概念も共通します。ゴスペルの本物のパワーに触れたら、日本人の心がかきたてられないはずはないんです(笑)。

芳賀 今年は大学を卒業してよいよ社会人ですね。

Nana ええ。20歳で大学に入ったのは、当時黒人歌手のアシスタントとして実社会の人たちと接する中で、自分の浅さを実感したからなんです。4月から外資系の企業で働くことになりました。2枚目のCDを出す予定もあり、5周年の記念コンサートも。社会人になると時間的に厳しくなりますが工夫して両立させたいと思っています。これからどう発展していくか自分でも分からないんですが(笑)、歌いたい人が集まって自由に歌えるという、ファファの核になる部分はいつまでも変えないように、がんばります！



ニューサービス日経立川中央	栄町4-8-12 522-4507
チーズ王国本社	栄町4-16-1 525-9800
手打ちそば 信更	栄町5-12-1 537-0991
FUKUSHIMAYA 立川店	栄町5-36-1 534-1700
相模屋酒店	栄町5-61-8 536-2476
メンズカット ヤザワ	栄町5-61-31 536-8738
森田接骨院	栄町6-6-25 535-6240
立川農産物直売所	幸町1-14-1 536-2439
いなげや 立川幸店	幸町1-23-6 537-1820
多摩信用金庫 幸町支店	幸町1-25-15 535-5311
中華レストラン SANFUJI	幸町2-3-5 536-3813
西武信用金庫 幸町支店	幸町2-11-34 537-3101
超こってりめん パワー軒	幸町2-35-3-1F 535-1665
お菓子処 花奴万葉庵 すずかけ通り店	幸町3-17-3 536-8785
江戸前・富山の魚と酒 緑寿司	幸町3-28-24 536-4800
至誠キートスホーム	幸町4-14-1 538-2323
とんかつ・割烹 かつ亭	幸町4-59-3 535-4611
ドイツ製法ハム・ソーセージ ゼーホフ工房	幸町4-59-4 535-5009
和洋菓子 たちばな	幸町5-2-16 537-0347
BSタイヤショップ 佐藤商会	幸町5-10-2 537-0912

えくてびあんの輪
立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります
今月は 栄町・幸町・錦町のお店です。

古楽の小屋	幸町6-22-32 536-7266
めがね・とけい補聴器 カワハラ	錦町1-1-25 525-4427
鳥料理 くし秀	錦町1-2-3 522-7692
御菓子司 やな瀬	錦町1-3-12 522-3969
宮地楽器 MUSIC JOY 立川南	錦町1-3-21 526-1779
中国料理 五十番	錦町1-4-5 522-7472
手づくり味噌の材料専門店 北島こうじ店	錦町1-4-28 524-3190
new gyozal059 餃子天国	錦町1-5-6-1F 526-2283
イタリアンダイニング asa	錦町1-5-6-1F 529-5668
ワインバー パルアラディ	錦町1-5-6-1F 523-3917
テーブルウェア H.works	錦町1-5-6-2F 521-2721
手うち蕎麦 なかさ	錦町1-5-22-1F 524-5758
中国気功整体院 立川院	錦町1-5-22-1F 529-1088
焼きたてパンの店 ヴァイツェンブート	錦町1-6-19 527-2176
日本クッキングスクール	錦町1-7-31 522-3440
ステーキレストラン リブレ	錦町1-8-3 527-1630
和菓子処 ゆうき	錦町1-8-5 525-0780
ザ・クレストホテル立川	錦町1-12-1 521-1111
美容室 アリス	錦町1-15-21 525-1100
パンと洋菓子 うちのやブルマン	錦町1-18-7 524-9280



自転車ファン垂涎、カンパニョロの工具セット

裏通りのマエストロ

自転車屋「シンボ」の職人魂

立川駅北口から歩いて少し。表通りから一本入った細い裏通りに小さな自転車屋がある。うっかりすると気づかずに通り過ぎてしまうが、競輪選手をはじめ自転車好きの信頼を集める知る人ぞ知る店。この道40年の店主が丁寧に調整したスポーツ自転車に乗ると、ちょっと遠出がしてみたいくなる。

写真: 五来孝平



サイクルショップ「シンボ」が店の名だが、常連も店主も単に「自転車屋」と呼ぶ。自転車屋のおやじ新保俊克さんの父が立川駅北口で自転車店を開いたのは70年ほど前。俊克さんがものごころつく頃には今の場所に移っていた。店を継いで40年になる。

間口2間もなさそうなビルの半地下にある店で、客の対応をしていなければ自転車を組み立てたり、走りを決めるホイールの調整をする姿がある。場所柄、立川競輪の選手たちの注文も多い。ひとりひとりスポークの組み方や固さの好み異なる。回転の中心をそろえる芯出し、回転によるブレをなくす振れとり……単純なメカニズムだからこそ、微妙な調整がものをいう。

「技術なんてものじゃないんだ。しかるべき工具を使って、当たり前のことをするだけ」。だいぶ丸くなったというが、口の悪いおやじの自転車屋には、プロや自転車で走るのが大好きな愛好者が集まる。情報交換の場でもある。「自転車で走る楽しさを知ってもらいたい。だからいいかげんに走ってもらいたくない。マナーも守ってほしいんだ」。

ロードレーサーやマウンテンバイクなどが中心だが、ごく普通の自転車も扱う。パンクした自転車が持ち込まれば見ている間に直す。「ずいぶん乗ったから、もうだめかしらね?」「いや、フレームがしっかりしてるから、まだまだ乗れるよ。」「儲かる商売じゃないなあ」とぼやきつつ、裏通りのマエストロは今日も自転車に向かう。

スポーツ自転車や車輪などの部品が並ぶ



特に固くするにはスポークを銅線で結びハンダ付けする



タイヤの破れた自転車が持ち込まれた



常連客と自転車談義



振れとりはスポークを微妙に調整していく



立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ

多摩てはこ
ネット

http://www.tamatebako-net.ne.jp/

多摩てはこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄

真如苑提供番組<じょうらくがじょう>

スカイパーフェクトTV 216ch、マイテレビ 84ch

土曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて七十年

真如苑

柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

MIZUHO

みずほ銀行

豊富な
ラインアップで、
お客さまの
資産運用ニーズに、
<みずほ>はおこたえます。

●ご相談はお近くのみずほ銀行へ。

私たちは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……
いろいろなコミュニケーションがあります。
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、
行なっている会社です。

と

大廣社は、企画デザインから
印刷加工までを自社内で行っています。

PLANNING・DESIGNING
PROCESSING・PRINTING
大廣社
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
TEL 042-527-1948
FAX 042-527-1911 E-mail info@daikousya.jp

えくてびあん流

スズカケから生まれた木管コンサート

モノレール下を南北に延びるサンサンロード北端に近い公園脇に3本のスズカケノキ(ブラタナス)がある。戦前植えられ戦中戦後を通して立川の飛行場と基地、開発の時代を見続けてきたこの木が、道路計画で伐られそうになったことがある。その時、市民有志が呼びかけて伐採から救ったことを覚えているだろうか?『えくてびあん』も1999年5月号で「スズカケ三兄弟」にオマージュを捧げた。

その3本のスズカケノキのエピソードを知った3人の木管楽器奏者が、立川で小さなクラシックコンサートを始めた。スズカケノキに感動した木管奏者たちの心意気を知った読売新聞立川支局が自社ビル内ホールを会場として提供し2月18日、第1回コンサートが開かれた。

クラリネットの橋爪恵一さんとオーボエの庄司知史さんは立川在住、ファゴットの鈴木禎さんは武蔵村山在住。立川ゆかりの3人を軸に、第1回はピアノの出羽(い

ずは)真理さんを加えて、トリオ・ダンシュと呼ばれる3本の木管楽器の響きを聴かせた。舞台づくりにはスズカケ救出作戦に関わった銅板造形作家の赤川政由さんや鑄金作家の友安昭さんたちも協力した。

街の歴史を見守ってきたスズカケの物語が、新たな音楽の物語として立川の地に定着することを願いたい。第2回コンサートは4月8日午後3時と6時の2回、読売立川ビル7階ホールで、クラリネットと弦楽四重奏の組み合わせで開かれる。



この人この店 ㉓

額縁専門店 プリムベール
PRIMEVERE

代表 梶原哲也さん

西国駅東側、羽衣公園のすぐ近くにプリムベールはあります。赤地に白抜きで「額縁・絵画 専門店」と書かれたテントの下、お店先には大小とりどりの額縁が並べられています。小粋な雰囲気が漂っていて、まるで絵はがきに描かれている街角の風景のよう。お店の中ではたくさんの額材に囲まれて、梶原さんがお客様とお話していらっしゃる。額の中に入れるものはさまざまです。額に入れたいという心、その心のお手伝いをさせていただいているんですね」と梶原さん。家族の肖像写真だったり、子どもの描いた絵だったり、時には成長につれて大きくなるヴァイオリンだったり。平面でも立体でもなんでも額縁に収めてくれます。「その人らしさに塩をふるように僕らしさを織り交ぜる」。それが額縁連盟認定フレーマーの技術とセンスですね。みなさんのお宅には、しまい込まれた想い出や宝物、ありませんか?



〒190-0021
立川市羽衣町 2-32-6
TEL 042-528-6789
FAX 042-528-6793

写真撮影: 五来孝平

タチカワ誰故草 ㉓

だいそれた森タワー

森 忠明

このところTVで目にすることが多い六本木の森タワーの威容は、何故か私に森鷗外の短篇『藤棚(明治四十五年六月)』の一節を想起させる。道が大きい弧線を書いて右へ曲がると、老とか死とか云ふものを知らない人の住みさうな、白い石で造った、がっしりした家の正面がある。たしかタワーかタワーリングという語には――大それた、道理外れの、野心的な――とかの意味があったはずで、あの営利の巷の超高層ビルをへ老とか死とか云ふものを知らない人の住みさうなものとして眺めても、さほど異存はあるまい。そこへゆくとボロの我が家は、老いた世外文学者が棲むにはびつたりの風情であり、死への準備などする処としては上々だ。ところが、三井のリハウスや住友さんが「売れ、売れ」とせっつていく。そこで両者に査定させたら二千万円も違うではないか。「いくら不動産部門は別でも、三井住友銀行を名のるあんたらで、



挿画: 野崎義成

大正の初年、東北から出稼ぎにきた祖父が立川で買った家は、ある浪曲師が全盛期に愛人のために拵えたものだそう、私はその家で二十歳まで暮らした。思えば妙に婀娜っぽい造りではあった。粹な黒髪や見越の松はなかつたけど、私の勉強部屋はもしかするとベッドルームだったのでは。きつそう。――忠明が俺の臍を囁かなければ今頃森ビルが建つたのに」とは亡父の繰り言。立川ヒルズの猫の額が、それなりの値で売れたあかつきには、私と相性のいい秋川べりに、燈台みたいなねぐらを建てて引越した。森タワーと名づけることに決めている。いつか東京駅あたりでタクシーを拾った人が「森タワーまで」と告げたら、近間の六本木のそれへじゃなく、貴境旧里・武蔵五日市の寓居へ飛ばす日がくるかもしれない。

八王子市の古本屋さんへちよくちよく行く。店主の佐藤氏に「森さんのお宅は立川のどの辺ですか」と訊かれたから住所を言うと、「豪邸エリアじゃないですか。さしづめ立川ヒルズ」。本気でおっしゃってるようなので大笑い。「ぼくんちだけ築三十七年のボロ屋でね。地価を下げてるって御所に怨まれます」。

なにゆえそんなに差がつくのさ。しょせん森家の土地は猫の死体、ではなかった、額ぐらいのものだけど、祖父の森正夫から百年ちかく維持してきた神話作用、いわゆるゲニウス・ロキ、つまり色んな魂が染み込んでるんです。それを単なる商品あるいは物としてしか扱わない態度は気に入らん。うそもいいからもっと恭敬の心をしめすべきでしょうが。ちよびつと気色ばんで演舌したら、彼らは黙って低頭。

表紙の人

井上 保さん(高松町)

スカウトはもともと軍隊の斥候のこと。先駆者という意味もある。青少年にたくましくと、率先して社会の先頭に立つ心を育てようと英国で生まれたのがスカウティング運動。立川では戦後の荒廃の中から昭和29年、先人たちの努力によってボーイスカウトの二つの団が生まれた。井上さんはその立川第1団で長年子どもたちの指導に当たり、隊長、さらに東京都連盟の役員として活躍する。建築家が本業だが、制服にネッカチーフ姿がやはりびびりやってくる。少子化などで消滅した団もあるが、伝統ある立川最古の団を率いてスカウトたちの先頭に立つ。眼差しは青少年の未来を見つめている。

国営昭和記念公園で 写真: 細江英公

かたこと

本号がお手もとに届く頃はすっかり春めいていることと思います。冬が厳しかった分、今年は梅なども遅れましたが、間もなく桜の花も満開。爛漫の春がもうすぐです▼暑さ寒さも彼岸までといます。北国山国ではお彼岸の暮参りも雪をかき分けてという土地もあるようですが、立川の辺りでは文字通り春分に似つかしい時期。冬の間、固く縮こまっていたからだを伸ばし、動きが活発になるのは動物を問いません▼立川市内ならば根川や残堀川沿い、国営昭和記念公園などに花見に行くもよし、電車に乗ったり自転車でちょっと遠出もしてみたくります。スポーツタイプの自転車なら風も一段と快適です▼VIEWでは曙町にある小さな自転車屋さんをご紹介します。走るという機能を最高にするために丁寧に調整された自転車は、乗るだけで楽しいそうです▼歌う楽しさも春にふさわしい。対談をお願いしたFABA GOSPEL HOUSEの若きリーダーNanaさんは19歳でこのゴスペルグループを立ち上げ、多くのメンバーを引っばって来ました▼若い力というのはいずれも、いつでも人は若いといえるのかもしれない。年ごとに瑞々しく芽をふく草木のように。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMNET design factory
写真 小林達実/五来孝平

えくてびあん (C) 4月号

第24巻 通巻257号
平成18年4月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 加賀悦也
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

【ゆでまんじゅう】

地粉のうどんに糧かてを添えて、人寄せの席にはゆでまんじゅうが加わる。湯気のたつ温かいまんじゅうを二つに割ると、皮の小麦の香りとともにふんわりとしたつぶし餡がのぞく。多摩に伝わる家庭の味。飾り気のない素朴さがおいしい。

(梅乃／栄町)



立川和菓子ものがたり

目に美しく食して美味 ③

【あんドーナツ】

和菓子屋のあんドーナツはパン屋のそれとは少しちがう。品よく小さめで、油っぽくない。緑川通りが松林だったころ、よくその中で遊んだと思えば話をしてながら、あんドーナツを包んでくれる。渋を抜かずに煮た餡が、変わりゆく町に懐かしい。

(井筒屋／曙町)

